



TCA ニュース

= 2012年11月発行 = 【No. 259】

発行 東京サイクリング協会 広報委員会

<http://tokyo-cycling-association.com>

〒104-0061 中央区銀座7-15-11-1201 Tel・Fax 03-3541-6540

サイクリストの五楽 ①輪楽・自転車を楽しむ ②行楽・旅を楽しむ ③道楽・道を楽しむ ④友楽・友を楽しむ ⑤遊楽・遊びを楽しむ

東京都盲人福祉協会から感謝状



東京サイクリング協会会長 加藤元彦
公益社団法人東京都盲人福祉協会からタンデムサイクリングの感謝状を頂きました。

去る10月26日、新宿区立新宿文化センター大ホールで開催された公益社団法人東京都盲人福祉協会結成110年記念、新宿区視力障害者協会創立50周年記念、“第44回東京都盲人福祉大会2012”において、新宿区長をはじめ関係官庁および諸団体の役員列席の壇上で、東京都盲人福祉協会会長より、東京サイクリング協会の永年に亘るタンデムサイクリング奉仕事業に対し、感謝状を頂きました。

以上報告の上、今後共、都盲協タンデムサイクリング事業に会員諸氏の参加ご協力を切にお願い申し上げます。

~~~~~

## 『タンデムサイクリングを楽しむ集い』参加者から

若松 千代子

お初にお手紙をさし上げる失礼をお許し下さいませ。

私、去る10月28日曜日皇居周りの二人のりの自転車に始めて参加させて頂きボランティアの倉持様にお世話になり81才の初体験を「本当に楽しませて頂き長生きして良かった」と感激いたしました。誠に有難うございました。

日頃のご活躍にお疲れのうえ折角の日曜日に我々のためにボランティア活動におやさしい手を差し伸べてくださる倉持様はじめボランティアの皆様方のご苦勞に深く感謝申し上げますと共に、この活動が末永く続きます様願っております。

どうぞ皆様にくれぐれも宜しくお伝え下さいませ。(原文は点字です)

~~~~~

事務局からのお知らせ

「自転車をもっと好きになる講習会」

12月15日(土)開催の講習会は、次の内容で実施する予定です。

- ① 加藤会長
- ② 高橋理事 変速機の調整 ー 自転車を囲んで色々
- ③ 北川専務理事 地図とGPS
- ④ 藤田理事 最近の自転車事情 (警察&損保)

【10月末現在 会員数 348名】

ドイツ・ロマンチック街道サイクリングツアー

「サイクリング折り紙親善大使」

《日程：2012年5月30日～6月14日》

TCA監事 中田修二

昨年のメルヘン街道に続き、今年はロマンチック街道をサイクリングしてきました。今回は伴走車を頼まず、全ての荷物を自転車に付けてサイクリングしました。登りは厳しいツーリングとなりましたが、節約できた費用を日程延長に利用し、名所旧跡を堪能することができました。

ロマンチック街道は、ビュルツブルクからフッセンに至る、ドイツで最も有名な観光ルートです。フッセンにあるノイシュバンシュタイン城は、東京デズニーランドのシンデレラ城のモデルにもなった由緒あるお城です。

サイクリング用のロマンチック街道は全長約450kmで標高差は600mあり、普通サイクリストは標高の高いフッセンからスタートする人が多いようです。しかし、サイクリングツアーの最後にお城を見た方が深い感動が得られるという先輩(河野監事)の提案に賛同し、我々TCAの仲間6人は登りを覚悟してビュルツブルクからスタートしました。また一日の走行距離を約50kmと短くして観光／撮影の時間を増やし、2週間かけて走行しました。



出発を前に、ビュルツブルクの宮殿にて

ドイツの6月はジュンブライド(6月の結婚)と言って結婚式の最も多い季節です。サイクリングで街の教会の近くを通ったとき、何度も結婚式に遭遇しました。ある日偶然教会から婚礼衣装に包まれた花嫁花婿が出現し、あまりの素晴らしい光景に思わず立ち止まりました。この時、同行の河野先輩のアドバイスに従って、日本から持参した箸の紙袋を使って白鳥をオリガミしてプレゼントしました。花嫁の手のひらにつがいのオリガミの白鳥を乗せると、結婚した二人のドイツ人はもちろん、周りの親族も含め大喜びしました。また我々が日本から来たサイクリストと知ると更に盛り上がり、お二人は「一生の思い出として大事にします。」と言ってくれました。

また別の日、コース中間に位置する有名なアウグスブルク市に泊まった時のことです。市の中心街にある「ラーツケラー」(市庁舎の地下レストラン)で食事をしていたら、隣に数十人の団体客がいました。それはドイツ流披露宴の若人の集まりでした。ここでもまた仲間の勧めにより、花嫁にオリガミをプレゼントすることになりました。花嫁の持っている花束を親友が預かり、その花嫁の空いた手に白鳥のオリガミを乗せてあげました。偶々今年はずまようじの紙袋も持っていたので、普通の箸の袋で折ったつがいに追加して小さな子供の白鳥も折って、3羽の白鳥オリガミを差し上げました。

ところが、これが思わぬハプニングを引き起こしました。新婦の別の友人が横から覗き込み、「あっ、この白鳥には子供がいるわ！花嫁花婿は今日結婚したばかりで、まだ子供はいないのに！みんな見てー！」周りにいた友人達が覗き込み「わーすごーい！」と囁し立てました。

これには私もびっくりして慌てて「ごめんなさい！」と謝ったら、花束を預かっていた親友が大笑いして「もちろん冗談よ！心配しないでね！」「いずれにしても今日と言うこの記念すべき素晴らしい日に、日本から素敵なお土産をありがとう！」と言ってくれました。そして私も花嫁とその親友と一緒に写真に納まりました。



3羽の白鳥オリガミを手にした花嫁、親友と一緒に

サイクリングを通じて日本とドイツの絆をまた深めることができました。